

「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の実現に向けて（案）」

～子どもの未来を創る適正規模・適正配置のガイドライン～

意見交換の記録

平成29年6月

発行：足立区教育委員会事務局
学校適正配置担当課
電話：03-3880-5426（直通）

平成28年10月に「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の実現に向けて（案）」を公表後、平成29年2月8日から3月22日にかけて、開かれた学校づくり協議会、保護者・地域説明会を開催させていただきました。ご出席いただきありがとうございました。この資料は、その時にいただいた主な意見と教育委員会の回答をもとにまとめたものです。

説明会の日程

日にち	会議名
2月8日	鹿浜西小学校開かれた学校づくり協議会
2月10日	花畑中学校開かれた学校づくり協議会
2月10日	花畑第一小学校開かれた学校づくり協議会
2月13日	花畑西小学校開かれた学校づくり協議会
2月18日	桜花小学校開かれた学校づくり協議会
2月21日	北鹿浜小学校開かれた学校づくり協議会
2月22日	入谷中学校開かれた学校づくり協議会
2月23日	入谷南中学校開かれた学校づくり協議会
2月27日	北鹿浜小学校保護者・地域説明会
3月1日	花畑北中学校開かれた学校づくり協議会
3月2日	北鹿浜小学校保護者・地域説明会
3月6日	花畑地区保護者・地域説明会（桜花住区センター）
3月8日	鹿浜西小学校保護者・地域説明会
3月9日	入谷南中学校保護者・地域説明会
3月11日	花畑地区保護者・地域説明会（花畑西小学校）
3月22日	入谷中学校保護者・地域説明会

【人口推計について】

Q1 平成44年の年少人口の推計が、平成21年のガイドラインよりも7,500人増えている。今後、社会状況の変化等で数値を見誤ることはないのか。

A1 人口推計は、将来必要な学校数を求める時に使用しております。適正規模・適正配置の実施計画（以下「実施計画」という。）を作る時は、学校規模の視点、年少人口の視点、施設更新の視点を加えて検討します。

Q2 日暮里・舎人ライナー沿線は、人口が増えているのではないかと心配している。先生の指導が行き届く、子ども達とより深く関われるなど小規模校の良い面はたくさんあるのではないかと心配している。

A2 沿線沿いの人口は、一時的に増加している地域もあります。実施計画の検討に当たっては、今後の沿線開発による人口の推移を注視していきます。

【適正規模の基準について】

Q3 適正規模の基準とは何を基準にしているのか。

A3 適正な学級数と標準児童・生徒数が基準です。適正な学級数は、12学級から24学級、適正な人数は、小学校は340人から760人、中学校は370人から840人を適正規模の基準としています。

Q4 国の法令では、12学級から18学級を適正規模としている。なぜ足立区は、24学級までを適正規模というのか。

A4 国の法令では、各自治体によって特別な事情がある場合はこの限りではないとされており、足立区では、各地域の特性を考慮し、24学級までを適正規模と定めています。

Q5 なぜ11学級以下が、あるいは12学級あっても人数が少ないと教育環境が悪いのか。

A5 小学校は、最低限クラス替えが出来るためには、各学年2学級以上が必要であるため12学級としています。また、中学校は、同じ地域の小学校2校程度から1つの中学校に進学することを想定し、各学年4学級の12学級としています。適正な人数は、12学級の学校でも人数の大小がありますので、1学級の平均人数から適正な人数を算出しています。

Q6 統合して大きくなると、子ども達に目が行き届かなくなるのではないかと心配している。先生の指導が行き届く、子ども達とより深く関われるなど小規模校の良い面はたくさんあるのではないかと心配している。

A6 小規模な学校の良い面も当然あります。しかし、ある程度の人数的中で子ども達が切磋琢磨していくような環境が、教育委員会として望ましいと考えています。

【適正配置の基準について】

Q 7 通学時間 30 分は小学 1 年生には長いのではないか。

A 7 通学時間は、子ども達が通学に費やせる時間から設定しています。道路状況や個々の歩く速さは異なりますので、統合の検討の際は、子ども達の安全を守るように対策を講じていきます。

Q 8 通学距離を延ばした理由に、分速 40 メートルで子どもが歩くとしているが、小学 1、2 年生と、6 年生では体力が違う。夏や雨の日、雪が降る日に、30 分も歩かされるのはいかなものか。

A 8 歩く速さは小学校低学年の子ども達がゆっくり歩いた場合で設定し、30 分歩く距離を通学距離に設定しています。今でも統合とは関係なく、この基準より長い通学路の学校がありますので、あくまでも目安として運用していきます。

Q 9 住んでいる場所によっては、学区域の学校より、隣の学校の方が近い場合がある。学区域を見直す事は考えていないのか。

A 9 学区域の見直しは、現時点では考えておりません。ただし、地域によっては、統合の検討に伴って学区域を変更することがあります。

Q 10 通学距離が延びれば、事故に遭う確率も上がる。また、通学時間 30 分という範囲を見守るのは困難なのではないか。

A 10 新たに 7 つの安全対策に取り組みますが、地域の皆さまの見守りが一番効果的だと考えます。多くの皆さまのご協力を得ながら、安全対策を進めていきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

【施設更新に関する方針について】

Q 11 施設更新のために、人数が多くても統合することがあるのか。

A 11 統合については、施設更新の視点だけではなく、学校規模の推移、年少人口の状況を見ながら、総合的に検討していきます。

Q 12 統合すれば 1 校当たり年間 9,000 万円の経費が削減されるとあるが、教育環境の向上と経費削減、どちらに重点をおいているのか。

A 12 統合は、教育環境の向上を第一に考えています。また、学校の改築には、大きな財政負担が伴います。そのため、施設更新計画と連動した実施計画を作成し、改築時期を平準化したうえで、改築を進めていきます。

【今後取り組むエリアについて】

Q 13 江北、鹿浜、入谷、花畑エリアを選定した理由は何か。

A 13 現在の学校規模、年少人口、学校の施設更新の状況の 3 点を検討して、今後取り組むエリアの選定を行いました。

Q 14 地域内では、都営住宅の建て替え、区画整理、エリアデザインなどにより、人口が増える可能性がある。そういう事も考えているのか。

A 14 人口推計では、都営住宅の建て替えや大規模開発も加味しています。都営住宅の建て替えは、元々住んでいた方に再入居していただくことが基本と聞いております。人口が一時的に増加している地域でも、現在の計画案で対応可能と見込んだ場合には、計画を進めてまいります。また、統合の検討をする場合は、地区内の今後の人口動向を注視いたします。

Q 15 統合の計画はどのように進めていくのか。

A 15 個別の実施計画（案）を策定後、関係する町会・自治会、開かれた学校づくり協議会、保護者の皆さまに改めて、説明をいたします。その後、頂戴したご意見について、反映できる部分は反映した上で、実施計画を決定します。

Q 16 いつ統合するのか教えて欲しい。

A 16 統合年次、統合校の場所は、決まっていません。入学するお子さんが、在学中に統合することを避けるため、小学校は 6 年、中学校は 3 年の周知期間を設けます。

平成 29 年 2 月から 3 月にかけて、ご説明の機会をいただきありがとうございました。「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の実現に向けて」は、平成 25 年 3 月に作成しました「足立区立小・中学校の施設更新計画」に基づく取り組みを振り返るとともに、今後の適正規模・適正配置事業について、足立区教育委員会の考え方をまとめたものです。

今回、皆さまからいただいたご意見を踏まえ、今後取り組むべきエリアの実施計画（案）の作成を進めてまいります。今後も、保護者の皆さまや地域の方々への説明と意見交換をさせていただきます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

足立区教育委員会事務局 学校適正配置担当課